詳しい情報は熊本市感染症情報をご覧ください

10月

令和8年(2026年)第43週　2026年10月19日(月)～2026年10月25日(日)

熊本市　感染症発生動向調査　速報



RSウイルス感染症

RSウイルスの感染による急性の呼吸器感染症で、年齢を問わず何度も感染を繰り返しますが、初回感染時には、より重症化しやすいといわれています。特に生後6ヶ月以内に感染した場合には、細気管支炎や肺炎など重症化することがあります。生後1歳までに50%以上が、2歳までにほぼ100%の乳幼児が少なくとも一度は感染するとされています。

詳しくは厚生労働省HP
「RSウイルス感染症に関するQ&A」

感染経路は？ 咳やくしゃみなどによる飛まつ感染と、ウイルスの付着した手指や物などを介した接触感染といわれています。

どんな症状？ 潜伏期は2～8日とされ、発熱、鼻汁、咳などの上気道炎症状が数日続きその後、場合によっては、気管支炎や肺炎などの下気道症状が出てきます。重篤な合併症として注意すべきものには、1歳以下では中耳炎の合併症がよくみられる他、無呼吸発作、急性脳症等があります。

感染対策は？ 日常的に触れるおもちゃ、手すりなどはこまめにアルコールや塩素系の消毒剤などで消毒し、流水・石鹸による手洗い、またはアルコール製剤による手指衛生を行うことが重要です。
また、鼻汁、咳などの呼吸器症状がある場合はマスクが着用できる年齢の子どもや大人はマスクを使用することや、手洗いや手指衛生といった基本的な対策の徹底を行うことが大切です。

●受診の目安について●



治療は基本的には対症療法を行います。多くは軽症で回復しますが、咳がひどくなる、呼吸が苦しそう、食事や水分摂取ができない時などは、早めに医療機関への受診をご検討ください。

※2026年度から、妊婦の方へのRSウイルスワクチンの予防接種が、予防接種法に基づく定期接種の対象になりました。

定点種別	疾患名	状況	42週(10/12～10/18)		43週(10/19～10/25)	
			報告数	定点当り	報告数	定点当り
急性呼吸器感染症（ARI）	インフルエンザ	－	204	8.87	195	8.48
	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)		3	0.13	2	0.09
	急性呼吸器感染症(ARI)		1064	46.26	1208	52.52
小児科	RSウイルス感染症		16	1.14	11	0.79
	咽頭結膜熱(プール熱)	－	2	0.14	0	0.00
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	－	13	0.93	14	1.00
	感染性胃腸炎	－	33	2.36	34	2.43
	水痘(みずぼうそう)	－	3	0.21	5	0.36
	手足口病	－	6	0.43	14	1.00
	伝染性紅斑(りんご病)	－	0	0.00	1	0.07
	突発性発しん		6	0.43	4	0.29
	ヘルパンギーナ	－	12	0.86	15	1.07
	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	－	0	0.00	1	0.07
眼科	急性出血性結膜炎	－	0	0.00	0	0.00
	流行性角結膜炎(はやり目)	－	5	1.00	5	1.00
基幹	細菌性髄膜炎		0	0.00	0	0.00
	無菌性髄膜炎		1	0.20	0	0.00
	マイコプラズマ肺炎		1	0.20	1	0.20
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)		0	0.00	0	0.00
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)		0	0.00	0	0.00

※「状況」欄は、疾患ごとの警報・注意報レベルを表示しています。表中の斜線は、基準値が定められていないことを示します。
〇:警報レベル　△:注意報レベル　－:警報・注意報レベルなし